

電子黒板でプログラムを実行

別の例としては、手書きで間をおいたり手順を示すことにより理解しやすくなることに着目した研究がある。PowerPointなどのソフトウェアを使ってプレゼンテーションを行っていても、生徒や観客から質問があると黒板やホワイト・ボードを使って説明する。こういった光景はよくみかけるものだ。手書きの方が、説明の意図や解答へのプロセスが伝わりやすいからだ。

東京農工大学工学部の加藤直樹博士らは、こういった手書き文字のメリットを授業に生かす研究

日経バイト
2002年2月号, pp.70-71

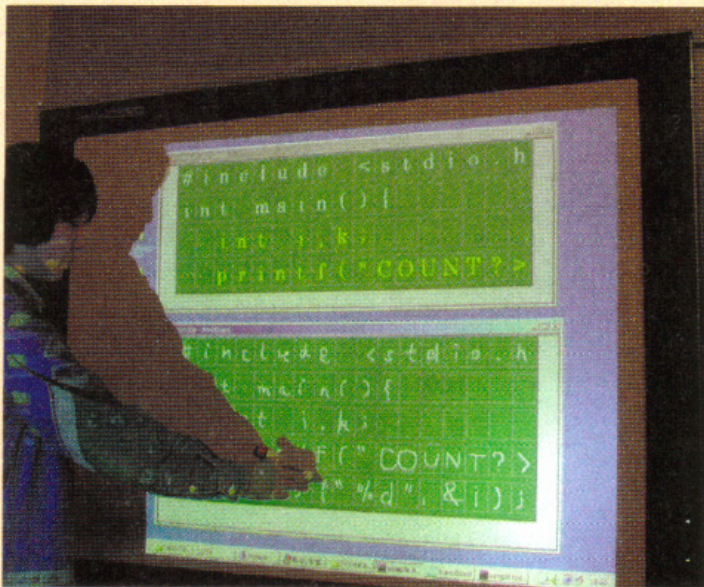


写真15 プロジェクタとペンを使った授業風景のデモ。ペンで手書き入力したソース・コードを文字認識し、実際に実行して見せることができる

を行っている。例えば、コンピュータ・プログラムの授業では、まず処理の流れを分からせるためペンを使った手書きソース・コードを書いていく。そして、書いた文字に対して文字認識を行えば、

その場でプログラムを実行してみせることもできる（写真15）。多角形を手書きで書いた後に図形として認識、回転して見せるといったことも可能になる。